

H24-B'-1深度7.50~10.93m 最新活動面の深度 (No.最-1) を変更

H24-B'-1 深度7.50~10.93m 薄片観察 最新活動面の認定

- ・深度7.90mにおける断层面α沿いの最新活動ゾーンでは、他の構造に切られていないY面Aが認められる。その分布を以下に示す。
- ・Y面Aは直線性にやや乏しく、連続性に富む。不明瞭である。細粒部を伴う。
- ・Y面Aのみが認められることから、Y面Aを最新活動面と認定した。



直交ニコル 全景写真

1cm



直交ニコル 全景写真

最新活動
ゾーン

1cm

- 凡例
- Y面A
 - - - 最新活動ゾーン※
- ※ 写真上は白色又は黒色で記載

Z(W) ←
↓
X(55° L)

※Y面は確実に認定できる部分のみを記載しており、
割れ目や不明瞭箇所では記載していない

1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

- ・最新活動面を細粒部の下端に変更（No.最-2）
（深度差1cm以下のため，深度標記は変更なし）

【理由】変更後の最新活動面認定方法に基づき実施した結果に変更

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

- a 性状一覧表のコア写真上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-2）
- b ブロックサンプル上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-2）

H24-H-6-1深度9.58~14.36m 最新活動面の位置 (No.最-2) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

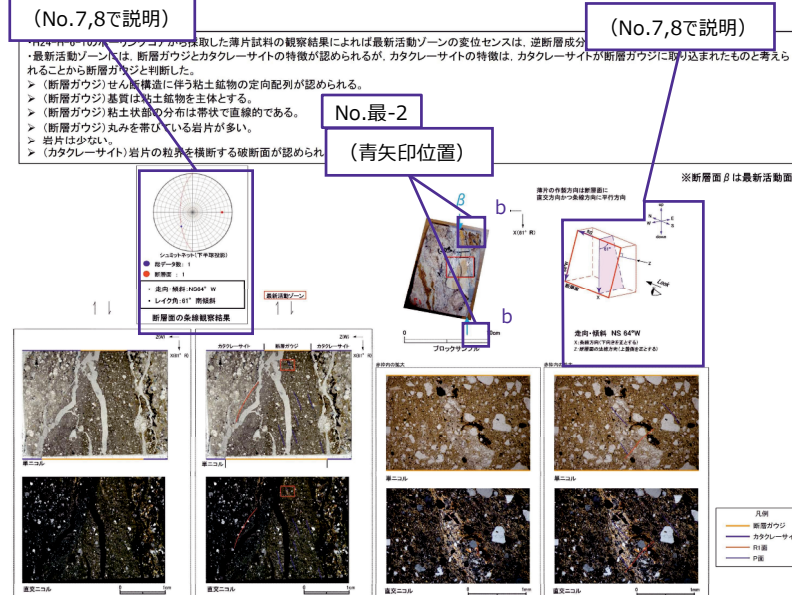
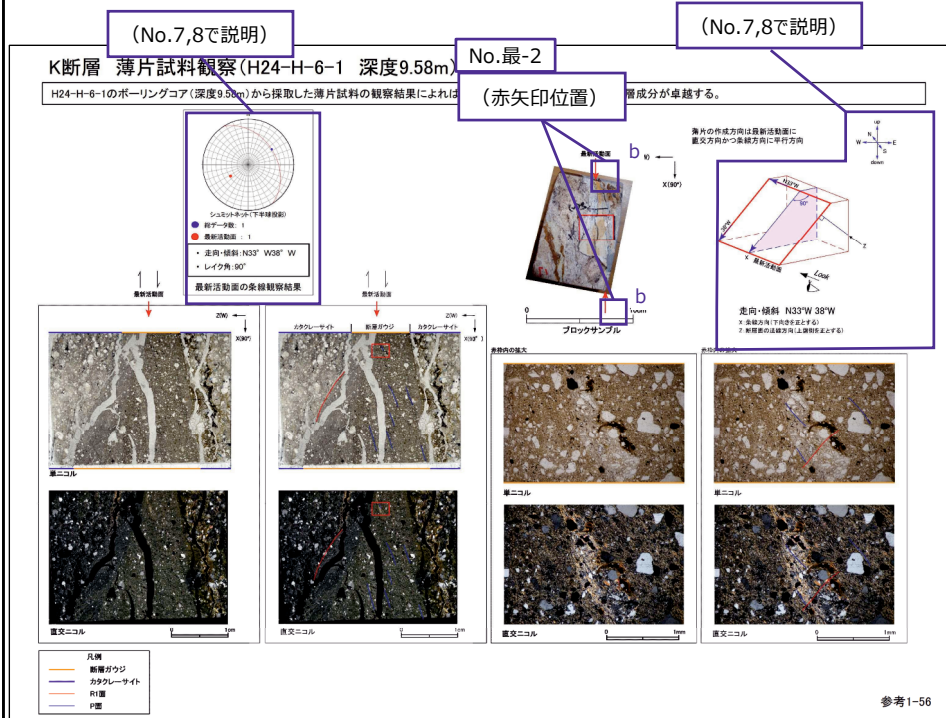
机上配布資料 1

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料1 薄片観察結果

参考1-56頁

第833回審査会合 机上配布資料Iに追記(青太枠)



第7.4.4.387図(6) K断層 破砕部性状 H24-H-6-1 深度9.58~14.36m (変位センス、薄片観察による断層区分(1/2))

H24-H-6-1深度9.58~14.36m 最新活動面の位置 (No.最-2) を変更

- 変更後の最新活動面認定方法によると、H24-H-6-1深度9.58~14.36m の破碎部における最新活動面は9.58mの細粒部の下端の断層面であるため変更した。

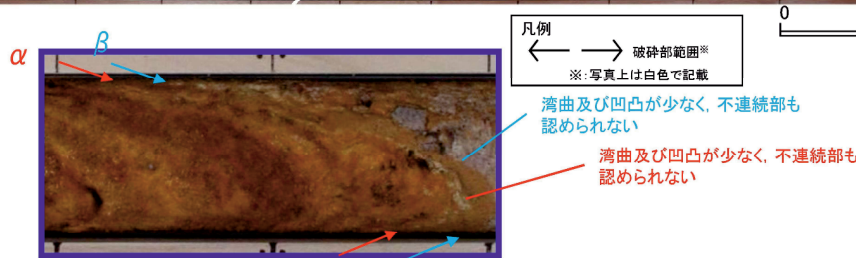
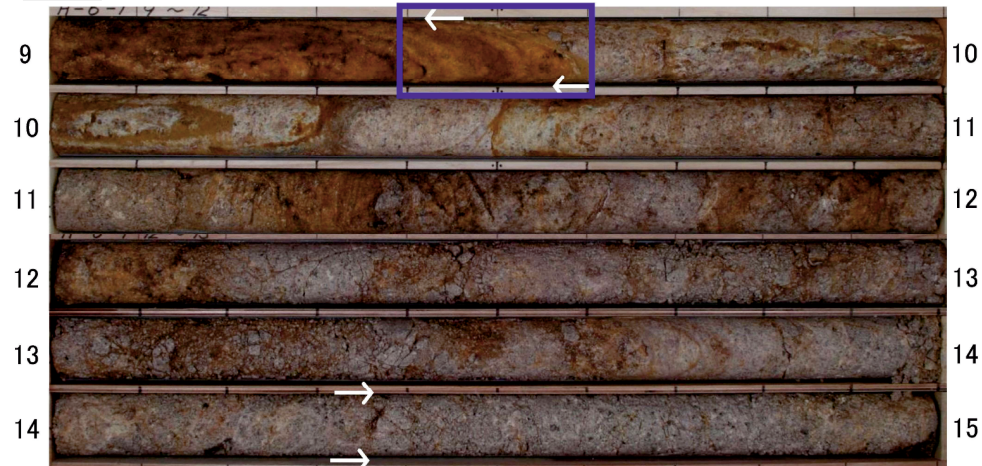
H24-H-6-1 深度9.58~14.36m ボーリングコア観察 断層面の認定

- ボーリングコア観察において、深度9.58mに断層面 α と断層面 β が認められる。
- 断層面 α は湾曲及び凹凸が少なく、直線性に富む。不連続部が認められず連続性に富む。
- 断層面 β は湾曲及び凹凸が少なく、直線性に富む。不連続部が認められず連続性に富む。

破碎部性状の記事

- 9.58~14.36m: 破碎部 (K断層)
- 9.58~9.59m: 砂混じり粘土状破碎部 (Hc-1)
傾斜75°。含水多く軟質。粘土化がすすみ塑性的変形をする。明黄褐色を呈する。幅5~10mm。
- 9.59~10.50m: 礫質粘土状破碎部 (Hb)
上端75°、下端20°でいずれも直線的。灰白色を呈する。10.14~10.21m間にほぼ85°の角度で幅5~10mmの砂混じり粘土状破碎部が挟在する。Hc-1に相当し明黄褐色を呈する。せん断面はない。10.21mに傾斜85°のせん断面。
- 10.50~13.59m: 粘土混じり礫状破碎部 (Hj)
上端20°、下端不明瞭。径20~30mmの岩片主体の砂礫状を呈する。10.50mの割れ目を境に多少粘土化が弱くなるが大差はない。しかし、これ以深粘土化は弱くなり、マサ状の岩盤に漸移する。明褐灰~褐灰色を呈する。
- 13.59~13.77m: 礫質粘土状破碎部 (Hb)
上端不明瞭、下端不明瞭。明褐灰色を呈する。13.59~13.67m間は石英粒が多いが軟質な粘土で充填されている。13.72mに幅3mm程の軟質粘土(45°、明黄褐色)挟み、その上下も強く粘土化している。
- 13.77~14.36m: 粘土混じり礫状破碎部 (Hj)
上端不明瞭、下端20°。明褐灰色を呈する。

コア写真



青枠部拡大

凡例
← → 破碎部範囲*
※: 写真上は白色で記載

湾曲及び凹凸が少なく、不連続部も認められない

湾曲及び凹凸が少なく、不連続部も認められない

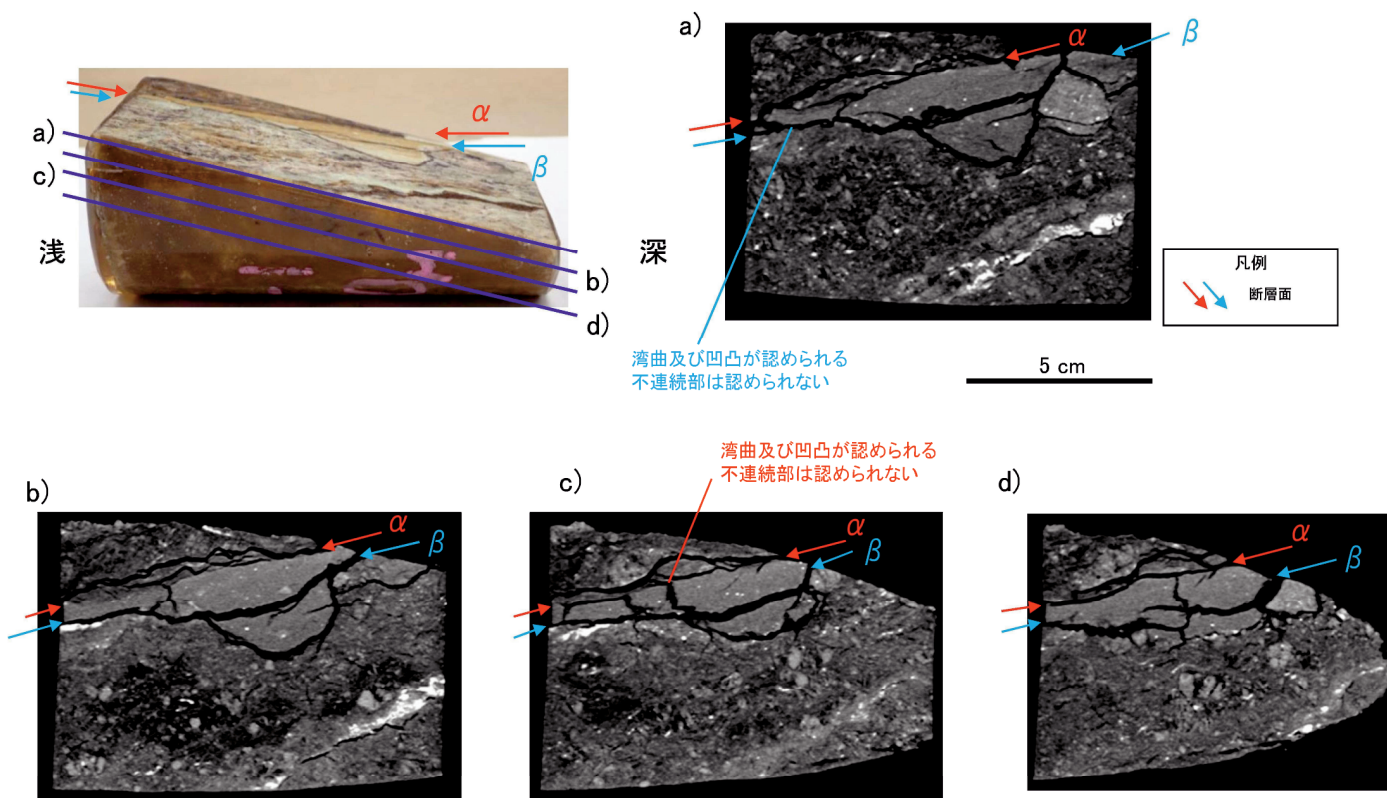
凡例
断層面

H24-H-6-1深度9.58~14.36m 最新活動面の位置 (No.最-2) を変更

H24-H-6-1 深度9.58~14.36m CT画像観察 断層面の認定

- ・CT画像観察において、ボーリングコア観察で認められた断層面 α と断層面 β が認められる。
- ・断層面 α は三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸が認められ直線性に乏しいが、不連続部が認められず連続性に富む。
- ・断層面 β は三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸が認められ直線性に乏しいが、不連続部が認められず連続性に富む。

研磨片CT画像

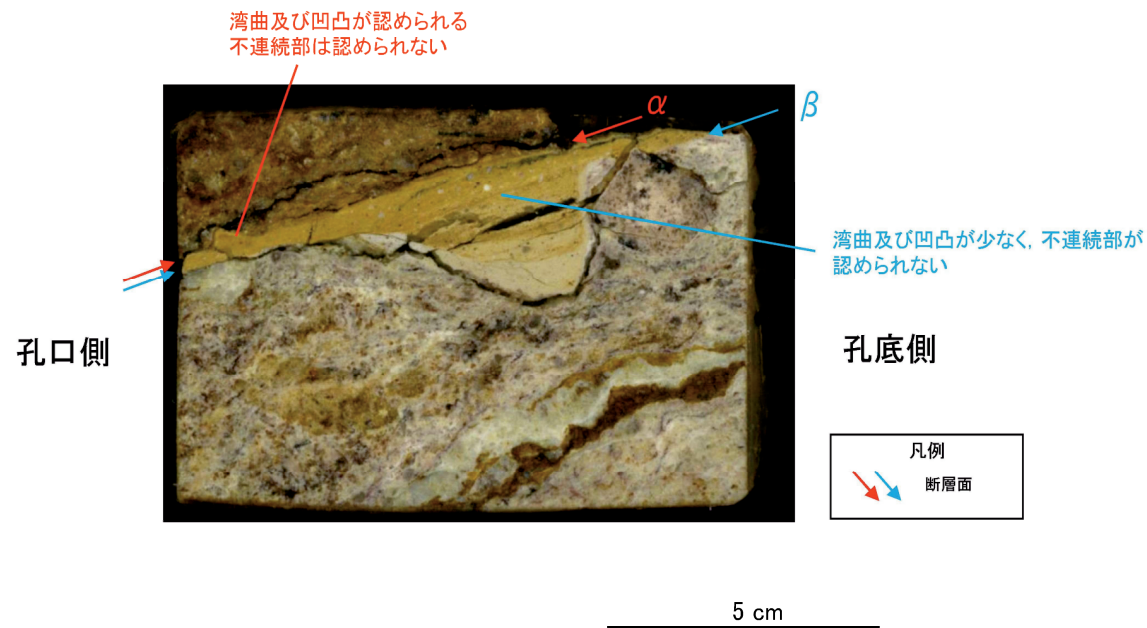


H24-H-6-1深度9.58~14.36m 最新活動面の位置 (No.最-2) を変更

H24-H-6-1 深度9.58~14.36m 研磨片観察 断層面の認定

- ・研磨片観察において、CT画像観察の結果と同様に断層面 α と断層面 β が認められる。
- ・断層面 α は他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸が認められ、直線性に乏しい。不連続部は認められず、連続性に富む。
- ・断層面 β は他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸が少なく、直線性に富む。不連続部は認められず連続性に富む。
- ・ボーリングコア観察、CT画像観察、研磨片観察より、細粒部を伴い、最も直線的な深度9.58mの断層面 β を検討対象の断層面とした。

研磨片写真



H24-H-6-1深度9.58~14.36m 最新活動面の位置 (No.最-2) を変更

H24-H-6-1 深度9.58~14.36m 薄片観察 分帯

- ・①のゾーンは、粘土鉱物の量は少なく、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。
 - ・②のゾーンは、粘土鉱物の量は多く、粘土鉱物の定向配列が認められる。岩片は①及び③より少なく、丸みを帯びている岩片が多い。
 - ・③のゾーンは、粘土鉱物の量は少なく、粘土鉱物の定向配列が認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。
- 以上のことから、細粒化が最も進んだ②のゾーンを最新活動ゾーンと認定した。

